

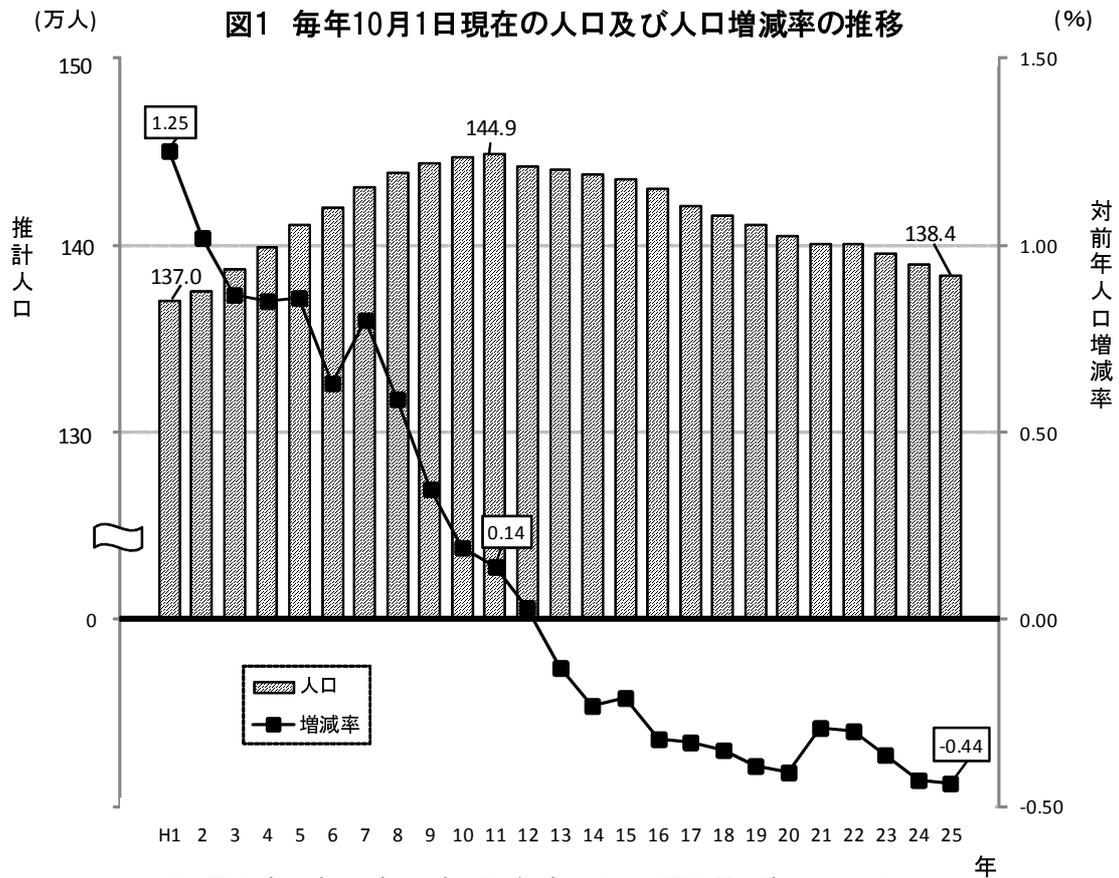
結果の概要

1 人口総数

奈良県の人口は、1,383,549人で14年連続の減少 (図1)

平成25年10月1日現在の奈良県の推計人口は1,383,549人で、前年と比べて6,141人(△0.44%)減少しており、平成12年以降14年連続の減少となっている。

また、推計人口と大正9年の第1回国勢調査の人口(564,607人)と比較すると約2.45倍になっている。(P39、付表1参照)



注)平成2年、7年、12年、17年、及び22年の人口は国勢調査確定値である。
 国勢調査実施年の人口増減率は、前回国勢調査の確定値を基礎とした推計人口により算出している。

市部人口は、全体の79.25% (表1)

市部・郡部別にみると、市部が1,096,423人、郡部が287,126人で、市部が全体の79.25%を占めている。

市町村別の人口は、奈良市が363,296人で最も多く、次いで橿原市(125,500人)、生駒市(119,720人)の順となっている。

また、最も少ないのは、野迫川村(469人)で、次いで上北山村(620人)、黒滝村(755人)の順となっている。(P15、第1表参照)

表1 市町村別人口

	人口の多い市町村			人口の少ない市町村		
	市町村名	人口(人)	県内構成比%	市町村名	人口(人)	県内構成比%
1	奈良市	363,296	26.26	野迫川村	469	0.03
2	橿原市	125,500	9.07	上北山村	620	0.04
3	生駒市	119,720	8.65	黒滝村	755	0.05
4	大和郡山市	87,698	6.34	下北山村	904	0.07
5	香芝市	77,213	5.58	天川村	1,432	0.10

2 世帯

世帯数は576,956世帯で増加を続けているが、1世帯当たりの人員は2.40人で年々減少傾向

(図2)

平成25年10月1日現在の世帯数は576,956世帯で、前年と比べ3,225世帯(0.56%)増加した。

一方、1世帯当たりの人員は2.40人で、前年と比べ0.02人の減少となった。

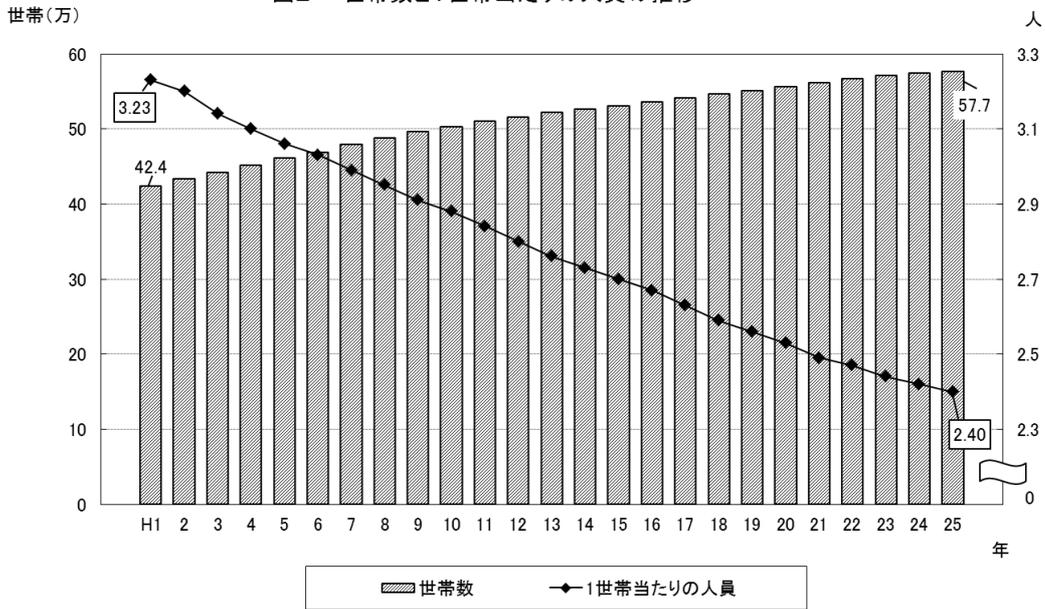
このように、人口総数は平成12年以降連続して減少している中で、世帯数は増加を続けており、世帯規模は年々縮小している。

1世帯当たりの人員を市町村別にみると、山添村が2.84人で最も多く、次いで広陵町(2.78人)、葛城市(2.67人)、香芝市(2.65人)、田原本町(2.61人)の順となっている。

また、最も少ないのは、下北山村(1.47人)で、次いで川上村(1.65人)、上北山村(1.82人)、野迫川村(1.84人)、東吉野村(1.86人)の順で、吉野郡内の町村が続いている。

(P17、第2表参照)

図2 世帯数と1世帯当たりの人員の推移



※世帯数は住民基本台帳による。

3 人口密度

人口密度は、大和高田市が4,022.7人/Km²で最高 (表2、図3)

奈良県の人口密度（1平方キロメートル当たり人口）は374.8人であった。そのうち、市部が861.8人、郡部が118.7人となっている。

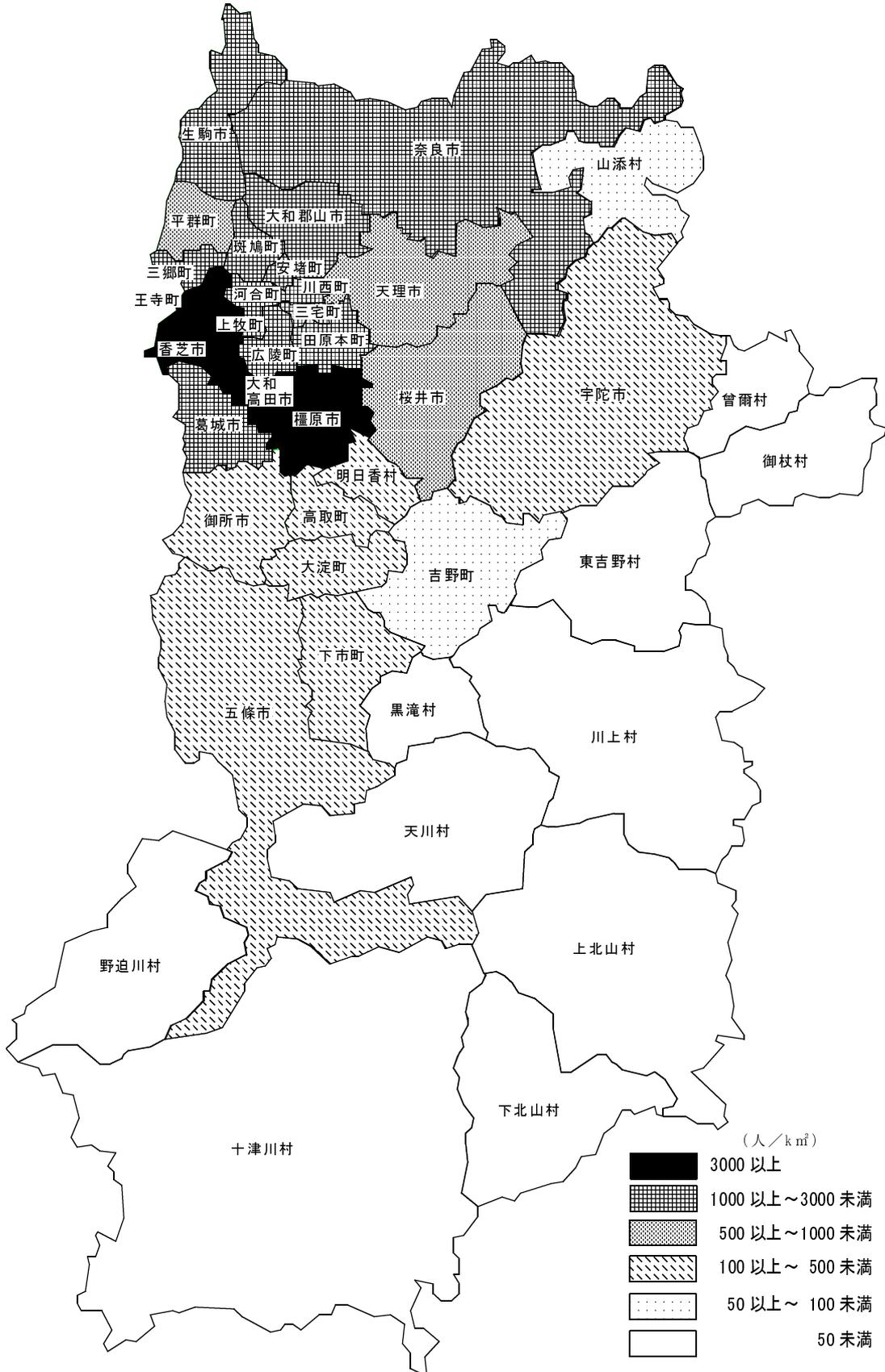
市町村別では、最も高いのは大和高田市（4,022.7人）で、次いで上牧町（3,757.0人）、王寺町（3,216.0人）の順となっている。

また、最も低いのは上北山村（2.3人）で、次いで野迫川村（3.0人）、川上村（5.3人）となっている。（P16、第1表参照）

表2 市町村別人口密度

	人口密度の高い市町村		人口密度の低い市町村	
	市町村名	人/km ²	市町村名	人/km ²
1	大和高田市	4,022.7	上北山村	2.3
2	上牧町	3,757.0	野迫川村	3.0
3	王寺町	3,216.0	川上村	5.3
4	香芝市	3,186.7	十津川村	5.5
5	橿原市	3,175.6	下北山村	6.8

図3 市町村別人口密度



4 人口性比（女性100人に対する男性の数）

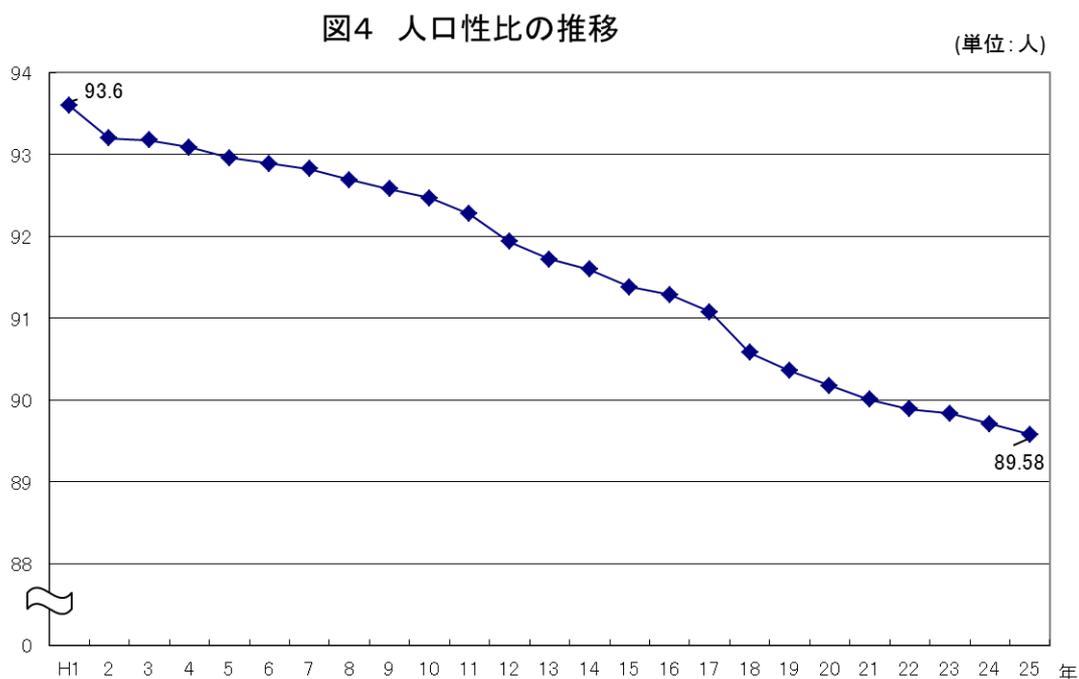
人口性比は89.58で、昭和62年以降27年連続で減少（図4）

男女別に人口をみると、男性653,769人、女性729,780人で、女性が男性より76,011人多い。

人口性比は89.58で、昭和61年に94.13を示した後、昭和62年以降27年連続で減少が続いている。

また、市町村別にみると、人口性比が高いのは、十津川村（115.51）、上北山村（105.98）、川上村（96.30）の順で、低いのは、黒滝村（84.60）、御杖村（84.73）、曾爾村（84.79）の順となっている。

（P16、第1表参照）



5 人口動態（自然動態及び社会動態）

1年間の人口増減数は、△6,141人(前年△5,997人)、
増減率は△0.44%(前年△0.43%)

(表3、表4、図5、図6、図7)

平成24年10月1日から平成25年9月30日までの1年間の人口動態をみると、自然動態（出生及び死亡の動き）は3,839人(△0.28%)減少、社会動態（転入及び転出の動き）は2,302人(△0.17%)減少となり、計6,141人(△0.44%)減少となっている。

そのうち外国人の人口動態については、自然動態が1人の減少、社会動態が433人の増加となっており、計432人の増加となっている。

また、人口動態を月別にみると、自然動態ではすべての月で死亡者数が出生児数を上回っており、社会動態では平成24年10月と平成25年4月以外の月で転出者数が転入者数を上回っている。

人口増減数	△6,141人	(432人)
自然増減数	△3,839人	(△1人)
出生	10,321人	(56人)
死亡	14,160人	(57人)
社会増減数	△2,302人	(433人)
転入	29,367人	(2,254人)
転出	31,669人	(1,821人)

※カッコ内は外国人(内数)の数値である。

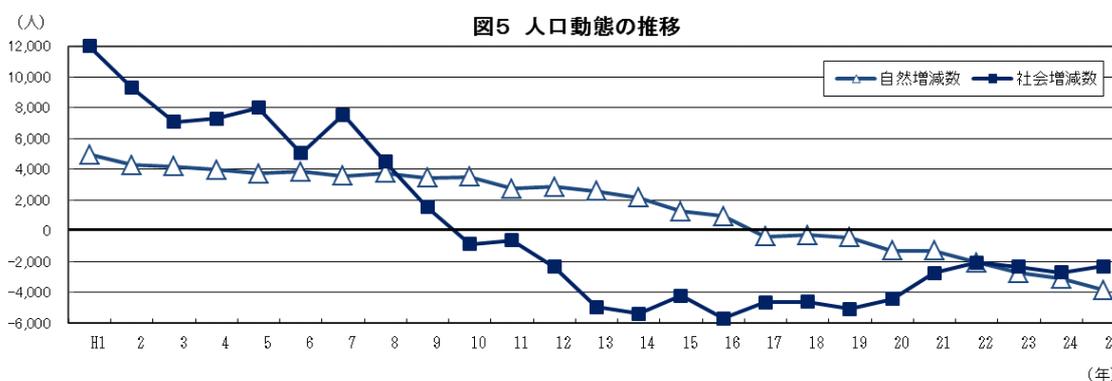


表3 人口動態 (10月1日現在) (単位:人)

年次	推計人口	対前年増減数		自然増減		社会増減		外国人登録者数増減
			率(%)		率(%)		率(%)	
平成元年	1,370,135	16,942	1.25	4,946	0.37	11,997	0.89	△ 1
平成2年	1,375,481	13,993	1.02	4,271	0.31	9,295	0.68	427
平成3年	1,387,442	11,961	0.87	4,192	0.30	7,067	0.51	702
平成4年	1,399,276	11,834	0.85	3,956	0.29	7,296	0.53	582
平成5年	1,411,258	11,982	0.86	3,721	0.27	7,994	0.57	267
平成6年	1,420,196	8,938	0.63	3,833	0.27	5,030	0.36	75
平成7年	1,430,862	11,326	0.80	3,561	0.25	7,546	0.53	219
平成8年	1,439,252	8,390	0.59	3,742	0.26	4,480	0.31	168
平成9年	1,444,340	5,088	0.35	3,432	0.24	1,547	0.11	109
平成10年	1,447,134	2,794	0.19	3,501	0.24	△ 876	△ 0.06	169
平成11年	1,449,138	2,004	0.14	2,725	0.19	△ 630	△ 0.04	△ 91
平成12年	1,442,795	475	0.03	2,852	0.20	△ 2,337	△ 0.16	△ 40
平成13年	1,440,920	△ 1,875	△ 0.13	2,590	0.18	△ 4,969	△ 0.34	504
平成14年	1,437,611	△ 3,309	△ 0.23	2,149	0.15	△ 5,380	△ 0.37	△ 78
平成15年	1,434,576	△ 3,035	△ 0.21	1,252	0.09	△ 4,212	△ 0.29	△ 75
平成16年	1,429,969	△ 4,607	△ 0.32	960	0.07	△ 5,698	△ 0.40	131
平成17年	1,421,310	△ 4,740	△ 0.33	△ 359	△ 0.03	△ 4,643	△ 0.32	262
平成18年	1,416,323	△ 4,987	△ 0.35	△ 288	△ 0.02	△ 4,627	△ 0.33	△ 72
平成19年	1,410,825	△ 5,498	△ 0.39	△ 435	△ 0.03	△ 5,091	△ 0.36	28
平成20年	1,405,074	△ 5,751	△ 0.41	△ 1,309	△ 0.09	△ 4,440	△ 0.31	△ 2
平成21年	1,400,951	△ 4,123	△ 0.29	△ 1,303	△ 0.09	△ 2,725	△ 0.19	△ 95
平成22年	1,400,728	△ 4,173	△ 0.30	△ 2,078	△ 0.15	△ 2,064	△ 0.15	△ 31
平成23年	1,395,687	△ 5,041	△ 0.36	△ 2,737	△ 0.20	△ 2,330	△ 0.17	26
平成24年	1,389,690	△ 5,997	△ 0.43	△ 3,103	△ 0.22	△ 2,722	△ 0.20	△ 172
平成25年	1,383,549	△ 6,141	△ 0.44	△ 3,839	△ 0.28	△ 2,302	△ 0.17	

※平成2・7・12・17・22年の人口は国勢調査確定値であり、増減数とは一致しない。

表4 月別人口動態

(単位:人)

年 月	増減総数	自然動態			社会動態		
		出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減
平成24年	△ 187	985	1,203	△ 218	2,188	2,157	31
10月	(98)	(10)	(3)	(7)	(195)	(104)	(91)
	△ 437	890	1,150	△ 260	1,727	1,904	△ 177
11月	(△ 4)	(3)	(2)	(1)	(129)	(134)	(△ 5)
	△ 446	833	1,188	△ 355	1,828	1,919	△ 91
12月	(△ 9)	(3)	(4)	(△ 1)	(119)	(127)	(△ 8)
平成25年	△ 887	871	1,494	△ 623	1,696	1,960	△ 264
1月	(2)	(5)	(3)	(2)	(131)	(131)	(0)
	△ 1,212	746	1,238	△ 492	1,731	2,451	△ 720
2月	(△ 58)	(6)	(3)	(3)	(125)	(186)	(△ 61)
	△ 1,873	818	1,248	△ 430	4,802	6,245	△ 1,443
3月	(50)	(4)	(2)	(2)	(288)	(240)	(48)
	934	870	1,165	△ 295	5,459	4,230	1,229
4月	(108)	(2)	(5)	(△ 3)	(293)	(182)	(111)
	△ 413	846	1,144	△ 298	2,127	2,242	△ 115
5月	(49)	(5)	(5)	(0)	(172)	(123)	(49)
	△ 299	760	1,005	△ 245	1,837	1,891	△ 54
6月	(85)	(4)	(3)	(1)	(210)	(126)	(84)
	△ 377	979	1,165	△ 186	2,123	2,314	△ 191
7月	(26)	(6)	(9)	(△ 3)	(175)	(146)	(29)
	△ 470	873	1,026	△ 153	1,935	2,252	△ 317
8月	(25)	(4)	(12)	(△ 8)	(179)	(146)	(33)
	△ 474	850	1,134	△ 284	1,914	2,104	△ 190
9月	(60)	(4)	(6)	(△ 2)	(238)	(176)	(62)
計	△ 6,141	10,321	14,160	△ 3,839	29,367	31,669	△ 2,302
	(432)	(56)	(57)	(△ 1)	(2,254)	(1,821)	(433)

※ かつこ内は外国人(内数)の数値である。

図6 月別自然動態

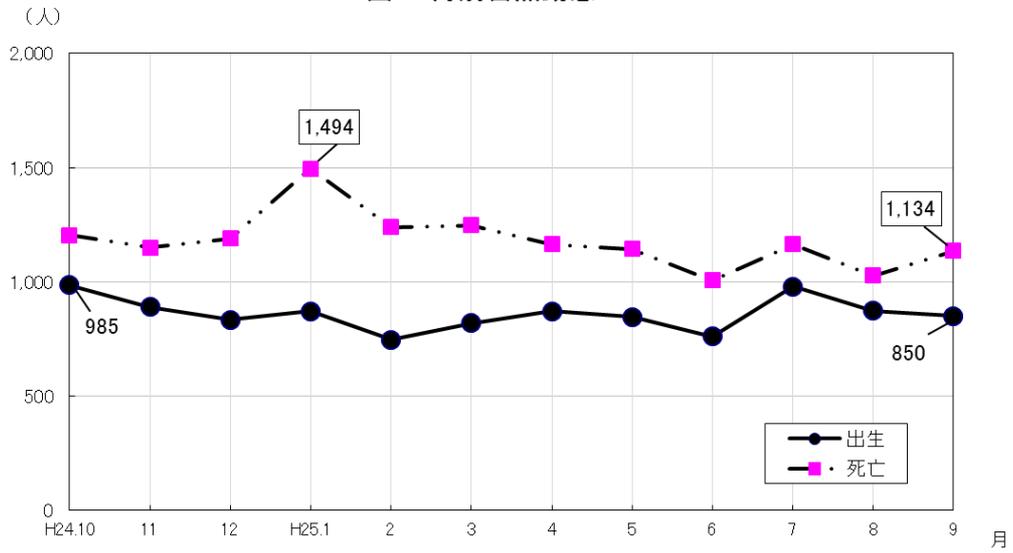
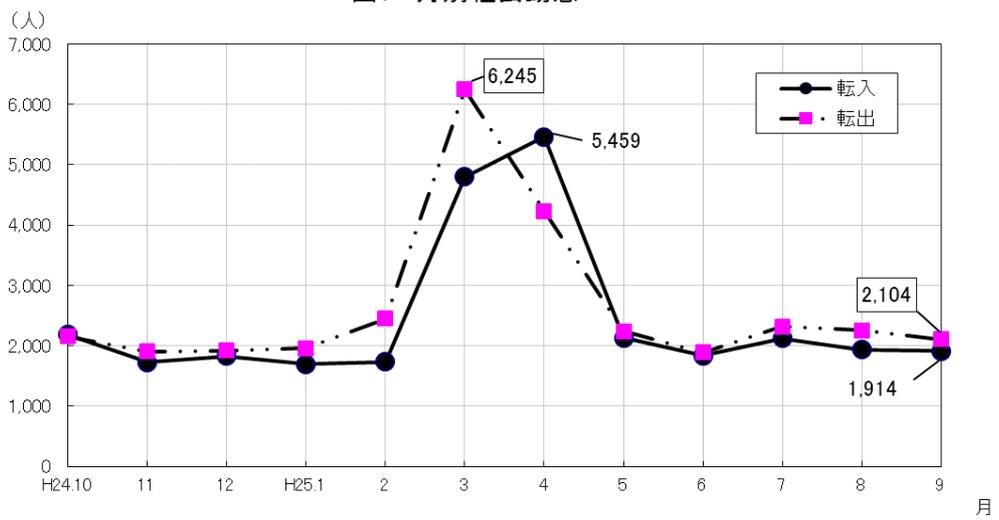


図7 月別社会動態



人口増加数は香芝市が518人で最多

(表5、図8)

この1年間で人口が増加したのは7市町、減少したのは32市町村であった。

1年間の人口減少数6,141人のうち、市部が3,998人の減少、郡部が2,143人の減少となっている。

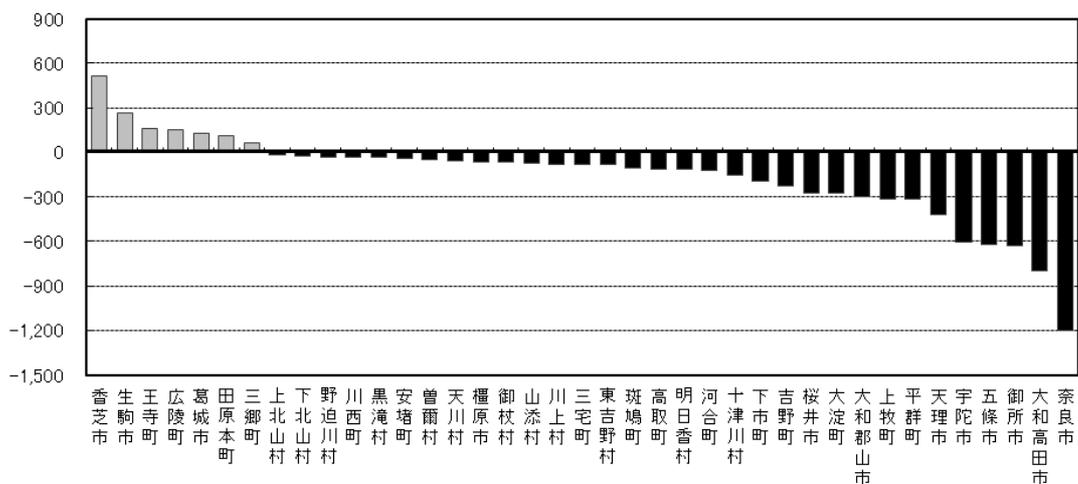
また、市町村別にみると、増加数が多いのは香芝市(518人)、生駒市(265人)、王寺町(162人)の順で、減少数が多いのは奈良市(△1,202人)、大和高田市(△796人)、御所市(△629人)の順となっている。(P15、第1表参照)

表5 市町村別人口増減数

	増加数の多い市町村		減少数の多い市町村	
	市町村名	増加数(人)	市町村名	減少数(人)
1	香芝市	518	奈良市	△1,202
2	生駒市	265	大和高田市	△796
3	王寺町	162	御所市	△629
4	広陵町	152	五條市	△624
5	葛城市	129	宇陀市	△601

(人)

図8 市町村別人口増減数
(24年10月1日～25年9月30日)



人口増加率は王寺町が0.72%で最高 (表6、図9、図10)

市町村別の人口増加率は王寺町が最も高く、0.72%であった。次いで香芝市(0.68%)、広陵町(0.46%)となった。

また、減少率が最も高いのは、野迫川村(△6.57%)で、次いで川上村(△5.16%)、黒滝村(△4.43%)の順となっている。(P16、第1表参照)

表6 市町村別人口増減率

	増加率の高い市町村		減少率の高い市町村	
	市町村名	増加率(%)	市町村名	減少率(%)
1	王寺町	0.72	野迫川村	△6.57
2	香芝市	0.68	川上村	△5.16
3	広陵町	0.46	黒滝村	△4.43
4	葛城市	0.36	東吉野村	△4.26
5	田原本町	0.35	十津川村	△3.87

図9 市町村別人口増減率
(24年10月1日～25年9月30日)

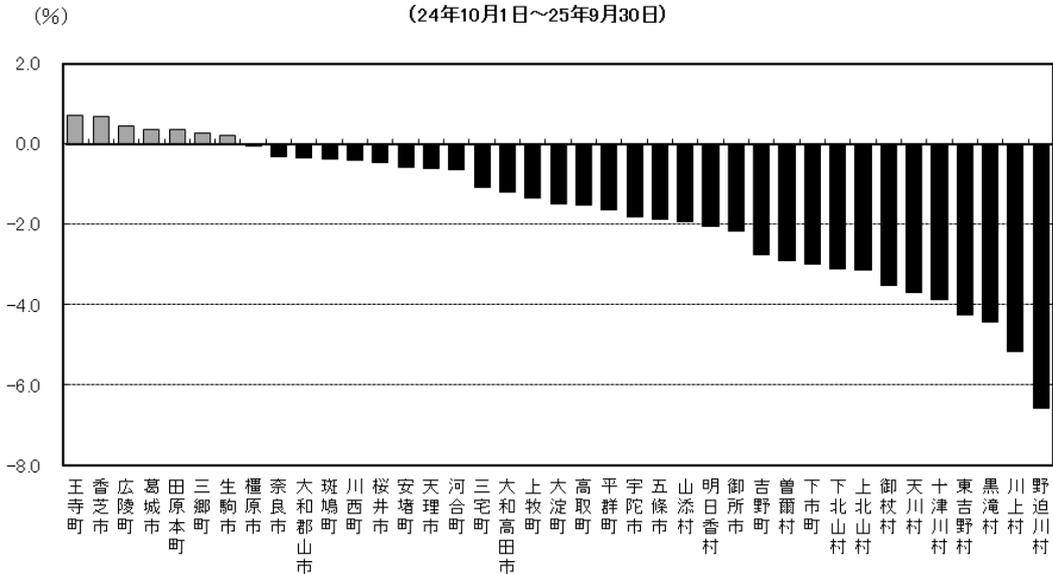
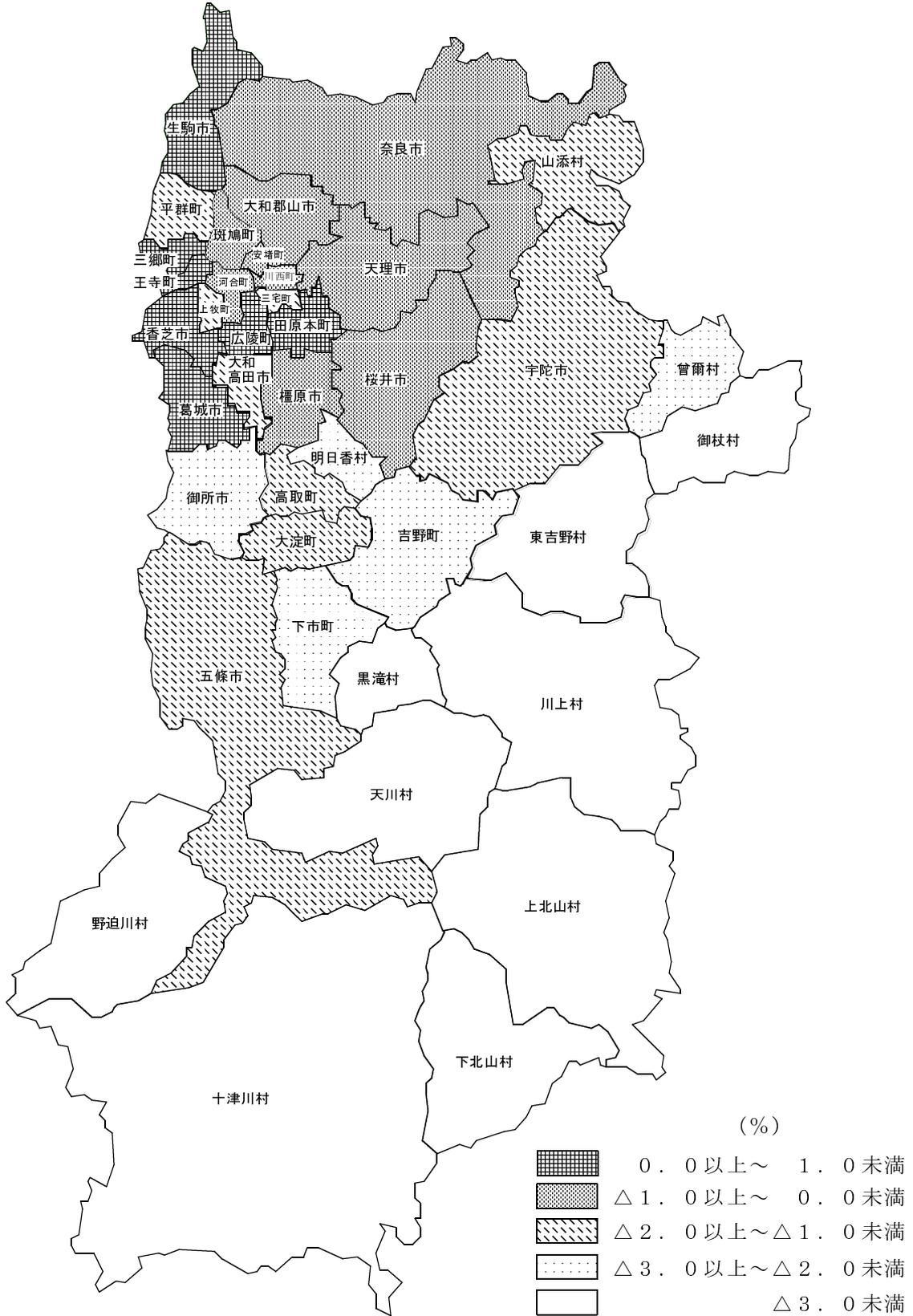


图10 市町村別人口増減率



6 社会動態（県外移動）

県外移動者数は、16年連続の転出超過（△2,302人）で、移動元・移動先とも大阪府が最多

（表7、図11、図12）

この1年間に、県外から本県へ転入して来た人は29,367人、本県から県外へ転出した人は31,669人であり、差し引き2,302人の転出超過となっている。

また、本県では昭和40年に調査が始まって以来転入超過が続いていたが、平成10年からは16年連続で転出超過となっている。

ブロック別に移動状況を見ると、移動元・移動先ともに近畿ブロックが最も多く、都道府県別にみると、移動元では大阪府（9,224人）、京都府（2,576人）、兵庫県（1,975人）の順で多くなっており、移動先では大阪府（9,815人）が最も多く、次いで京都府（2,939人）、東京都（2,254人）の順となっている。

（P30、第6表の1参照）

図11 ブロック別移動状況

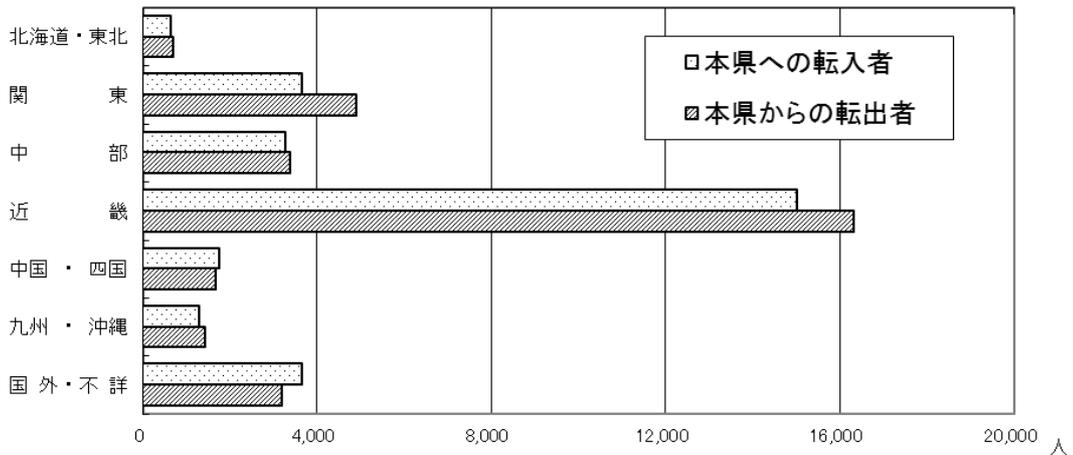
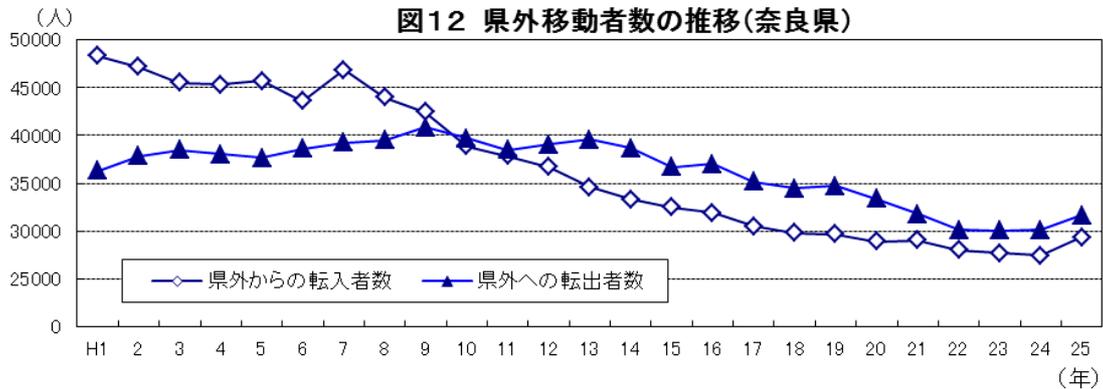


表7 都道府県別移動状況(上位10都道府県)

	本県への転入			本県からの転出		
	都道府県名	人数(人)	構成比(%)	都道府県名	人数(人)	構成比(%)
1	大阪府	9,224	31.41	大阪府	9,815	30.99
2	京都府	2,576	8.77	京都府	2,939	9.28
3	兵庫県	1,975	6.73	東京都	2,254	7.12
4	東京都	1,411	4.80	兵庫県	2,240	7.07
5	愛知県	1,073	3.65	愛知県	1,222	3.86
6	三重県	1,034	3.52	三重県	971	3.07
7	神奈川県	861	2.93	神奈川県	955	3.02
8	和歌山県	680	2.32	千葉県	718	2.27
9	滋賀県	580	1.98	滋賀県	682	2.15
10	千葉県	568	1.93	和歌山県	666	2.10



7 市町村別にみた社会動態

9市町が転入超過、30市町村が転出超過 (図13)

社会動態(△2,302人)を市町村別にみると、県内移動と県外移動をあわせた総数で9市町が転入超過、30市町村が転出超過となっている。

転入超過数が多いのは、香芝市(256人)、生駒市(208人)、田原本町(151人)の順で、転出超過数が多いのは、大和高田市(△517人)、奈良市(△427人)、天理市(△328人)の順となっている。

(P21、第4表の1参照)

